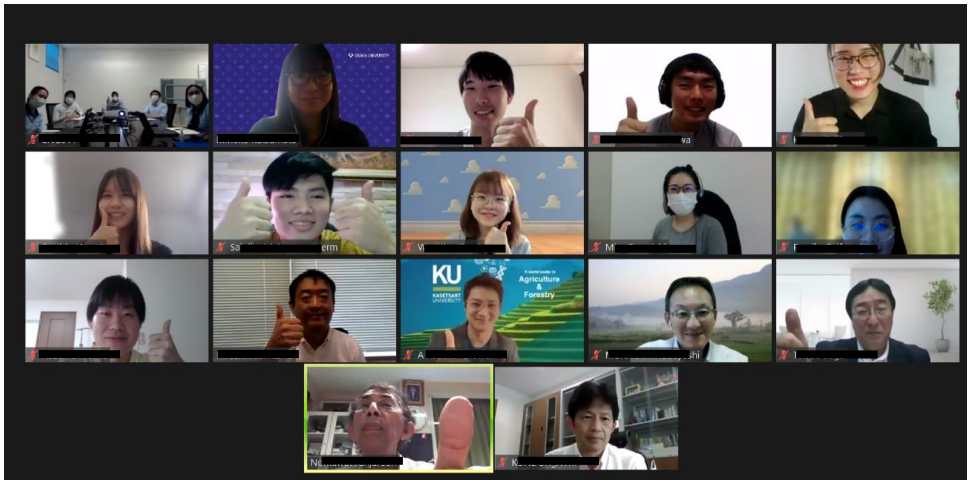
行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業―オンライン CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業　国際人材育成部門
特任准教授(常勤)　勝又　美穂子

2021 年 8 月 23 日～30 日の期間でタイと日本を結んでオンラインカップリング・インターンシップ（CIS）を実施しました。本年度も引き続き新型コロナの影響で海外へ渡航出来ないことから、プログラムの目的や学習効果は最大限、現地実習と同様に据え、オンライン CIS にて活動しました。タイ CIS には本学外国語学部 1 名、人間科学部 1 名、工学研究科 2 名、カセサート大学人文学部 2 名と機械工学部 2 名の計 8 名の学生が参加しました。

本学学生は 5 月から 8 回にわたり実施された事前研修で企業、文化、CIS 課題等について学び、準備をしてきました。オンライン CIS 開始後 2 日間の事前研修では、アイスブレーキングを目的としたコミュニケーションの研修、両国紹介、ものづくり日本企業の強み、溶接基礎知識、CIS 実習テーマに関する協議などを学生が主体となり進めました。8 月 25 日からはナワナコン（バンコク近郊）にある OTC ダイヘンアジアとオンラインで接続し、企業紹介と、3 日間に亘る社員とのインタビューを実施しました。学生は実習テーマである「コミュニケーションの課題と対策」に関して、日本人幹部、タイ人マネージャー、タイ人スーパーバイザー、スタッフ等へ多くの質問をし、企業の皆様からは熱心にお応え頂きました。その後学生はチーム協議によりチームの考えるコミュニケーションの重要な点、インタビューから得た情報に基づく改善ポイント、改善案等について考察・検討を行い、最終提案へとまとめ上げました。

最終日の 8 月 30 日はオンラインで最終報告会を開催しました。最終報告会には、OTCDA の辻井副社長、森山部長、野田工場長他タイ人マネージャー等、カセサート大学の Prof. Nontawat（機会工学部長特別アドバイザー）、Dr. Apichart（同国際担当）、当研究所の西川教授、菅特任教授、言語文化研究科の村上教授他が参加しました。A・B 両チームからは課題に対し、異文化理解の重要性、情報伝達の円滑化、より良い職場環境の構築、コロナ禍だからこそのコミュニケーションの促進活動等様々な観点からの提案がありました。辻井副社長からは「オンラインという制約ある状況にも関わらず、チームワークの結果としてとても良い発表がされ、学生の学びが見えた」とのコメントを頂戴しました。参加学生からは、初期のコミュニケーションの難しさを克服し、最後までやり遂げた充実感や各自の学びがあったことがコメントされました。いつも温かく活動に連携頂く企業様へ改めて御礼申し上げます。